

優秀賞

おじいガンバレ

沖縄県 宮古島市立池間小学校二年 山口 翔平

「おじい、ただいまー。」

「しようへい、おかえり。あつかったね。つめた
い麦茶があるからのもね。」

と、いつもならそう言っつて、ぼくの帰りを待つて
いるおじいの声聞きこえません。

そう言えば、具合がわるくてびょういんへ行く
と言っつていたけど、大じょうぶかなあと思っつてい
たところに、お母さんが帰っつてきて

「おじいね。入いんしたんだよ。のうこうそくと
いうびょう気で、体がうごかなくなっつているん
だよ。」

ぼくは、びっくりしました。

「しようへいのおじいは、とても元気だね。」
と、友だちから言われるくらい元気じるしのおじ
いです。

「まさか、びょうきになるなんて。」

ぼくは、心ばいで、お母さんとおじいの入いん
しているびょういんへ行きました。

「おじい、大じょうぶ。」

「んー。」

と、おじいは、とてもくるしそつで、小さく見え
ました。

「お母さん、おじいは、いつお家に帰れるの。」

「そうね、しばらくは、入いんだね。でも、毎日
しようへいの顔を見たら元気になるかもね。」

おじいのびょう気がよくなるなら、ぼくは、毎
日でもおじいの所へ行こうと思いました。

一週間、二週間がたち、おじいのびょう気は、
少しずつよくなっつてきました。

いつものように、おじいが入いんしているびよ
ういんへ行くと

「しようへい、見ていてよ。」

と言っつて、いきなりベッドから立ちあがっつて一歩

二歩と歩きました。

「すごい。おじい歩けたね。」

おじいは、毎日少しずつ歩くれんしゅうをして
いたそつです。

「おじい、がんばれ、がんばれ、いっぱい歩けた
ね。」

ゆっくりゆっくり歩くおじいを見てみると、な
んだかむねがキュンとしました。もう歩けないと
思っつていたのに、歩けるよつになつたのです。

前のように、自てん車をこいだり、テキパキう
ごくことはまだまだです。

これからは、ぼくがおじいの大へんな所を手伝
つてあげたいです。

今ぼくは、どうわ話し大会のれんしゅうをし
ています。きんちようして、じょうずにお話しで
きないかもしれません。

さいごまでまけずになんばることをおしえてく
れたおじいに、お話し大会で一ばんになっつて、お
じいにプレゼントしたいと思っつています。

